3月の行事報告 *March*

宿縁廟法要・春季彼岸法要に出席して　3月21日(祝日)13:00～15:00

3月21日午後1時から、あいにく雨の為中原寺本堂において「宿縁廟法要」が厳かに執り行われました。

引き続き「春季彼岸会法要」では、平野住職が導師を勤められ、前住職、総明尼に続いて門信徒の皆さんと大きな声で仏説阿弥陀経を読経いたしました。

本日の講師として鎌倉市西敬寺の高見沢孝之師をお迎えいたしました。 冒頭、中原寺本堂にあふれんばかりの多勢の信者が集まっているのを見て大変驚いておられました。 高見沢師はいつもは20人ぐらいしか集まらない信者さんの前でしか、お話をされておられないそうです。

まだお若い高見沢師は、 お話が上手になるために話術を学ぶよりもご聴聞を重ねることが重要ですと話されたのが、 心に残りました。

お話のはじめ頃でしたが、ご聴聞するときは、その都度「頷いて下さい」「内容がわからない時でも頷いてください」と仰しゃったので、 変だなと率直に思いましたが、頷いているうちに、 そのほうが講師の方と心が通ってお互いに素直にご聴聞させていただけると思いました。

自分の勝手な思い込みのせいで、 自分の考えが間違っていたことに後で気付いたと、 楽しく話しをお聴かせいただきました。

お釈迦様と阿弥陀様の違いについてのお話、鎌倉の大仏をお釈迦様と言っている人が多いが、 本当は阿弥陀様です、と教えて下さいました。 私も思い違いをしておりました。

（植木 輝夫 記）

ワンポイント解説

■「行と信」とは?

「行」とは「南無阿弥陀仏」と阿弥陀仏の名を称えること。「信」とは仏の教説を信じて疑わない信心のこと。 浄土真宗では、行と信とは阿弥陀仏の側から与えられる他力念仏・他力信心であり、凡夫の側から起こすものではないとされる。こうした行や信を、大行・大信という。

（参考：「学研/浄土の本」）

新人会員紹介

こんにちは、昨年の4月に入会致しました市川市の中国分に住んでおります、上原勝哉(65歳)と申します。

中原寺さんとは今までお付き合いはありませんでしたが、 一昨年に母が亡くなり、その際は時間もなく葬儀社に紹介を頂いたお寺さんに法要を依頼し済ませました。しかし四十九日法要など今後のこともありましたのでお寺を探しておりましたところ、 近くに中原寺さんがありましたので、お寺に事情をお話ししたところ、快くお引き受けいただきお世話をおかけすることになりました。

昨年、 門信徒会に入会するとともに壮年会にも入会しました。初めて1月28日の新年会に出席し、壮年会の皆さまと楽しく歓談させていただきありがとうございました。

新年会ではお寺さんのイメージがかなり変わりましたが、 皆さんのお話を聞きますと情熱とともに勉強熱心であることが解り、時々は(?)心を引き締めないと、思っています。

なかなか普段の壮年会には出席できませんが、 何かお手伝いなど、できることから始めたいとおもいますので、よろしくお願い申し上げます。

（上原 勝哉 記）

編集後記（壮年会だより：平成30年4月「春号」会報）

今年初めての壮年会だよりです。 昨年入会された、上原勝哉氏の自己紹介を頂きました。 また植木輝夫氏の投稿を頂きました。 また前住職さんのスリランカ旅行記も必読のエッセイです。 皆さんの投稿を今年も宜しくお願いいたします。

○編集委員：河合功・福島秀昭（レイアウト）　○印刷・送付：杉田善久

Cyugenji Sounen-kai Dayori

壮年会だより

平成30年4月 春号　中原寺仏教壮年会だより Vol. 24

お釈迦様は、「生きものを(みずから)殺してはならぬ。また(他人をして)殺さしめてはならぬ。また他の人々が殺害するのを容認してはならぬ」『ブッダのことば』岩波文庫81頁と示されました。 鈴木大拙師は、 大谷大学教授の時、大谷大学の学徒出陣式での挨拶で、「皆さん、戦争に行っても相手を殺してはなりません。 あなたも死んではいけません。 捕虜になってもいいから、元気で帰ってきてください」と言われたそうです。

仏教徒として、やはり“戦争ができる国”にしてはいけないと思いますが?!

【住・職・閑・話】

普段あまりウィンタースポーツに興味がない人でもオリンピックとなると、話は別ではないでしょうか。過去最多のメダルを獲得した日本人選手の活躍もあって、連日テレビで平昌オリンピックの盛り上がりが伝えられました。私も羽生結弦選手の鬼気迫る4回転ジャンプや女子カーリングチームの熱戦を、手に汗を握りながらテレビ観戦していました。

ところでオリンピックの開会式と閉会式では大きな違いがあります。 それは開会式のときには、選手が各国の国旗を先頭に規律正しく整列して入場してくるのに対して、閉会式では国ごとに分かれることなく、 雑然と入場してきます。 それぞれに他の国の選手と肩を組んだり、 写真を撮りあい、場内に流れている音楽に合わせて踊ったり、 おどけるように歩いたりと和気あいあいとした様子が画面を通して伝わってきます。

このようなスタイルで閉会式が行われるようになったのは1964年の東京オリンピックが始まりだそうで、「東京式」と呼ばれているそうです。

晴れの舞台に自分の望んだ結果を残した選手も悔しい思いをした選手も、国籍や人種、競技種目、性別を超えて純粋にオリンピックを楽しむ姿は、見ている私たちも清々しい気持ちにさせてくれます。

清風宝樹をふくときは
いつつの音声いだしつつ
宮商和して自然なり
清浄薫を来すべし

親鸞聖人が著わされた和讃のなかの一首で、お浄土の様子があらわされています。 お浄土には金・銀・水晶などの宝石でできた樹木があり、それらに清らかな風が吹くと五種の音色を奏で、その音色はすべてが調和しているといわれています。

中国の音階は「宮・商・角・徵・羽」という五つの音階からなっていて、本来ならば宮と商という音は不協和音になり美しいハーモニーにはなりません。 しかし仏様の世界では、どのような性質の違った音でも、すべてが調和して一つになって聞こえるというのです。 これは互いの違いにこだわりが無くなり、互いを引き立てあっている自由な世界ということがあらわされています。 私たちの世界では、他者との違いにばかり目を向けて自分との間に壁をつくり、互いに傷つけあうことがしばしばです。

他者の成功を一緒に喜ぶどころか、かえってねたみさえすることがあります。 日本の選手を応援するあまりに他国のライバルの失敗を願っていた、まさに私の姿であります。

オリンピック閉会式の各選手の笑顔に、二年後の東京オリンピックが益々待ち遠しく感じられました。

平成30年度　中原寺仏教壮年会活動について

日頃、壮年会活動等にご協力をいただき、ありがとうございます。

今年度で会長7年目になりますが、今年度は会長職最後の年度で、今まで会員皆様の支えで、ここまで会長職を勤めさせていただきましたこと、心よりお礼申し上げます。

さて平成30年度の年次総会で目標と活動方針を説明いたしましたが、その活動は、まずお寺の法要や行事には積極的に参加をしていただければと思います。

事前の準備では本堂や聞法会館で椅子や机を整備したり、事後には後片付けの仕事がありますので、多くの方のご協力をお願い致します。

壮年会法座について、本年度は仏教用語について学んでまいります。 多くの仏教用語が日常的に使われています。

2月10日の壮年会では、「縁起」について住職のお話と皆で話し合いを行ないました。

本年度の御旧跡一泊旅行は、6月3～4日、新潟方面の親鸞聖人ゆかりの2ヶ寺訪問を予定しています。 近年は壮年会員の参加が少々少ないようですので、できるだけ多くの会員の方に参加していただければと思います。

また恒例のグラウンドゴルフ中原寺杯も5月頃予定があり、秋には松戸の天真寺さんとの交流グラウンドゴルフ大会も予定しております。 豪華賞品も用意していますので、奮って参加をいただければと思います。

本年度も会員皆様のご協力をいただいて活動してまいりたいと思います。 お身体には充分気をつけて過ごしていただければと願っております。 合掌

（壮年会長　石井　保 記）